

日時 令和3年(2021年)11月8日(月) 10:00~12:00

場所 北海道釧路養護学校 寄宿舎食堂

出席者 学校運営協議会委員 新橋第一町内会長 高橋 實 様  
 北海道社会福祉事業団白糠学園長 細川 和則 様  
 ゼペットの会会長 佐藤 みちる 様 (欠席)  
 釧路孝仁会看護専門学校副学校長 楠木 恵子 様  
 北海道釧路養護学校PTA役員 八幡 百合香 様  
 北海道教育大学釧路校准教授 小野川 文子 様  
 障がい者就業生活支援センター「ふれん」センター長  
 高谷 さふみ 様 (欠席)

北海道釧路養護学校 校長 高橋 好則 (委員)  
 副校長 齋藤 利文  
 教頭 武藤 健司  
 事務長 山本 哲功  
 主幹教諭 佐々木 尚美  
 寮務主任 北外 さゆり(代理 学部主事(高) 東 裕子)  
 寄宿舎庶務部長 平田 桂  
 寄宿舎生活部長 中村 元  
 寄宿舎保健体育部長 深山 耕一  
 寄宿舎研修部長 嶋崎 光希子  
 寄宿舎指導員 石井 尚子 岩井 巧 石橋 令子 徳毛 貴紀  
 その他寄宿舎指導員

日程及び内容

10:00~ 開会・日程説明 副校長  
 校長挨拶 高橋校長  
 会長挨拶 小野川会長  
 自己紹介 各委員・職員

10:10~ 学校支援部会

- (1) 説明 釧路養護学校における寄宿舎の教育活動の実践  
 平田庶務部長(寄宿舎) 資料配布・PC画面
- (2) 提言 特別支援学校の寄宿舎の機能と役割について  
 小野川会長 資料配布・PC画面

11:00~

- (3) 熟議 意見交換・質疑等  
 委員 寄宿舎は日常生活の縮小版、成長発達過程の段階を経験できる場  
 委員 医療施設と共通することが多い  
 北海道は地理的に遠隔地寄宿舎が不可欠であり、指導員の専門性が必要  
 委員 学舎連携はどのように  
 一年3回、長期休業時に懇談を行い共通理解を持つ場を設けている

- 委員 在宅通学の保護者には、寄宿舎の情報が少なく理解がなかなかされていなかった  
今日の説明で初めて知ったことが多く、さらに情報発信してほしい
- 委員 過去に通学生の保護者や教員に体験入舎をしてもらった取組が有効であった
- 職員 毎朝登校前の様子を把握するため寄宿舎に行くが、子供の次のステップに向けて職員がどう情報発信していくかが大事と感ずる
- 委員 「主体的な生活」の力をつけることが大きな目標  
訓練だけをさせる場ではない、個々の指導の達成のみにとらわれずにしてほしい
- 職員 自活、グループホームへ入所できるようになることを目標として指導している
- 委員 子供自身が、寄宿舎での経験を自ら納得して生活に結びつけられるとよい
- 職員 高等部の生徒の卒業時の具体的な目標を大事にしている
- 委員 高等支援学校では、「生活訓練」の体験をさせている
- 職員 小さな目標達成の積み重ねから成長させたい  
子供の要求を受け止めながらの、指導する側の働きかけ方が難しいと感ずる
- 委員 集団生活による刺激が大事  
縦割り(年齢的な先輩後輩)の関係により、自分が他人の支えになる実感は重要  
子供同士の関係性の中でもっと経験をさせて欲しいと思う  
できないことでもやろうとすることにより、生活のバリエーションが広がる
- 職員 卒業後の生活を、長い目で理解して指導しているか  
子供の個々の基本的な発達段階を理解するには、専門的な知識と経験が必要  
生活の中で経験を通して学ばせるという視点を、学校も寄宿舎も忘れずに
- 委員 「点」にばかり注目しがち、「線」で見通すことが大事  
職員自身が、寄宿舎で働くことを、子供と一緒に楽しんでほしい
- 委員 家庭に置き換えると、親も指導者目線になりがち
- 委員 いろいろな体験をさせてやりたい  
遠隔地対応に加え、近隣でも体験入舎をさせるという方法もある  
寄宿舎をもっと身近に感じてもらえるよう、情報発信を
- 委員(職員)  
「戦術」である個々の指導を、先を見通した「戦略」に繋げたい  
「生活」は自分の経験からしか培われないが、寄宿舎の職員はその経験のバリエーションを多く持っているはず  
縦割りによる喜怒哀楽の効果を、どうプロデュースしていくか

校長挨拶  
会長挨拶  
閉会

12:00